

夏休み市民連句会

令和五年 八月十一日 於 桃園集会所



連日の猛暑続きでしたが、十名の方が参加してくださいました。二つのグループに分かれて二十韻を楽しみました。

日常と違った脳への刺激や連衆として心通わせてのひとときを和やかに過ごされていました。

五竜の滝の座 二十韻「萩の風」の巻

捌勝又 丘女

樽一丁水面を渡る萩の風

勝又 丘女

雲居の月に響く横笛

窪田 浩晃

秋の縁孫と将棋を楽しみて

佐野 彰一

ボールで遊ぶ黒ぶちの猫

大池 美木

ウ帰り道煮物の香り急ぐ心

鴻巣 洋子

腕の時計は父のお下がり

丘女

電話口家族の視線背なに受け

浩晃

同窓会で夢は再び

彰一

記念日に待ち合わせする藍浴衣

美木

葉柳の下熱き抱擁

洋子

ナオ ジョギングを規則正しく続け居て

丘女

打球音して悲喜のこもごも

浩晃

いつまでもリニア論争延々と

彰一

大道芸を照らす凍月

美木

雪下駄を棚の奥より庭先へ

洋子

お稲荷さんへ清酒供える

丘女

ナウ 我が町で初めて演ずる市民劇

彰一

薄氷踏み児等の歓声

浩晃

咲き初めを指さしてみる花大樹

美木

巣立ちの鳥に託す美(は)しき世

洋子

首尾 令和五年八月十一日 於 桃園集会所

二十韻「金木犀」巻

捌土屋 日菜

金木犀一里四方に香を放つ

土屋 日菜

遠くに電車薄月の夜

佐野 仙由

鶴鴉にスマホ片手に近づきて

桃井 伴子

朝の散歩で交わす挨拶

水野 森雄

ウ スーツケース部屋の隅にてスタンバイ

仙由

秘めて激しき白蓮の恋

日菜

待ち合わせ心弾んで銀の鈴

森雄

ペールギェントをカフェテラスにて

伴子

舌自慢闇汁会で發揮する

日菜

枯野の向こう富士の幻影

仙由

ナオ 納税の返礼品は曲げわっぱ

伴子

早く治まれ気候変動

森雄

君の手をそっと握って傘の中

仙由

湯舟に垂らす秘蔵香水

日菜

淡き月微かに聞こゆ祭笛

森雄

柏手二つ犬はおまわり

伴子

ナウ 伊豆展望寄せる白波時刻み

井上 輝夫

春待つ茶店暖簾新調

仙由

花明かりウエディングドレス映える路

伴子

港棧橋乱舞する蝶

森雄

首尾 令和五年八月十一日 於 桃園集会所